

第4回学校運営協議会を開催しました

2月20日（月）、令和4年度の第4回学校運営協議会を開催しました。

学校運営協議会の出席者

三野谷地区区長会長、栄寿クラブ会長、体協三野谷支部長、三野谷地区青少対会長、民生児童委員代表、主任児童委員代表、読み聞かせボランティア代表、三野谷公民館長、認定こども園MINOYA園長、七小PTA会長、七小校長、七小教務主任、CSディレクター、館林市教育委員会学校教育課指導主事

今回は、「本年度のコミュニティ・スクールの成果と課題」について話し合いました。

熟議での主な意見

- コロナ禍で制限もあったが、学校・地域・公民館の連携は比較的よくできていた。
- 地域行事はあまりできなかったが、コロナ禍で中止になっていた交流行事が公民館を介して実施できて、活気が戻った。
- 今後コロナの感染状況が悪化しても、感染対策をしながら、行事が行える体制作りをしていきたい。
- 世代間交流をもう少し広げ、定着させたい。野菜作りや花作りなどもできるといい。学校の近くで場所を借りられるといいが、校庭の一部を畑にするということも考えられる。
- 来年度は地区運動会を、地域のよさを残すために、実施する方向で考えていきたい。親睦が図れるような種目に精選して実施するのはどうか。地域の方と子どもたちが顔を合わせることで、安全対策にもなる。運動会ができなければ、地区の人と一緒にやるイベント的なものでもいい。
- 七小の校庭でやっていた納涼祭も、飲食の工夫が必要になるが、復活させたい。
- 校舎のクリーン作戦をやってみたらどうか。
- 世代間交流に親世代の若い人にも入ってもらえるといい。
- 世代間交流は、考え方の違いを埋める作業に難しさがあり、若い世代が参加できるようにするには工夫を積み重ねていく必要がある。
- 「ささら」については、地域のしほりをなるべく取り払い、伝統芸能の継承を図りたい。クラブを作るなどして、3年生だけでなく、上学年になっても体験できるといい。
- 日本語が十分話せない外国籍の児童が入学する予定があるので、ボランティアとして日本語の指導のお手伝いをしたい。
- 公民館や学校からボランティアを募集してもらえると、活性化を図れるのではないかと。必要に応じて市内のサークルなどを活用してみてもよいのではないかと。
- ◎コロナ禍でできなかったことが多く、地域の行事を経験していない教員も増えている。そういった現状の中で、できることをやっていくということが大事。感染対策をしっかりとしながら、みなさんのお力添えをいただきながら、できることをやっていきたい。

